

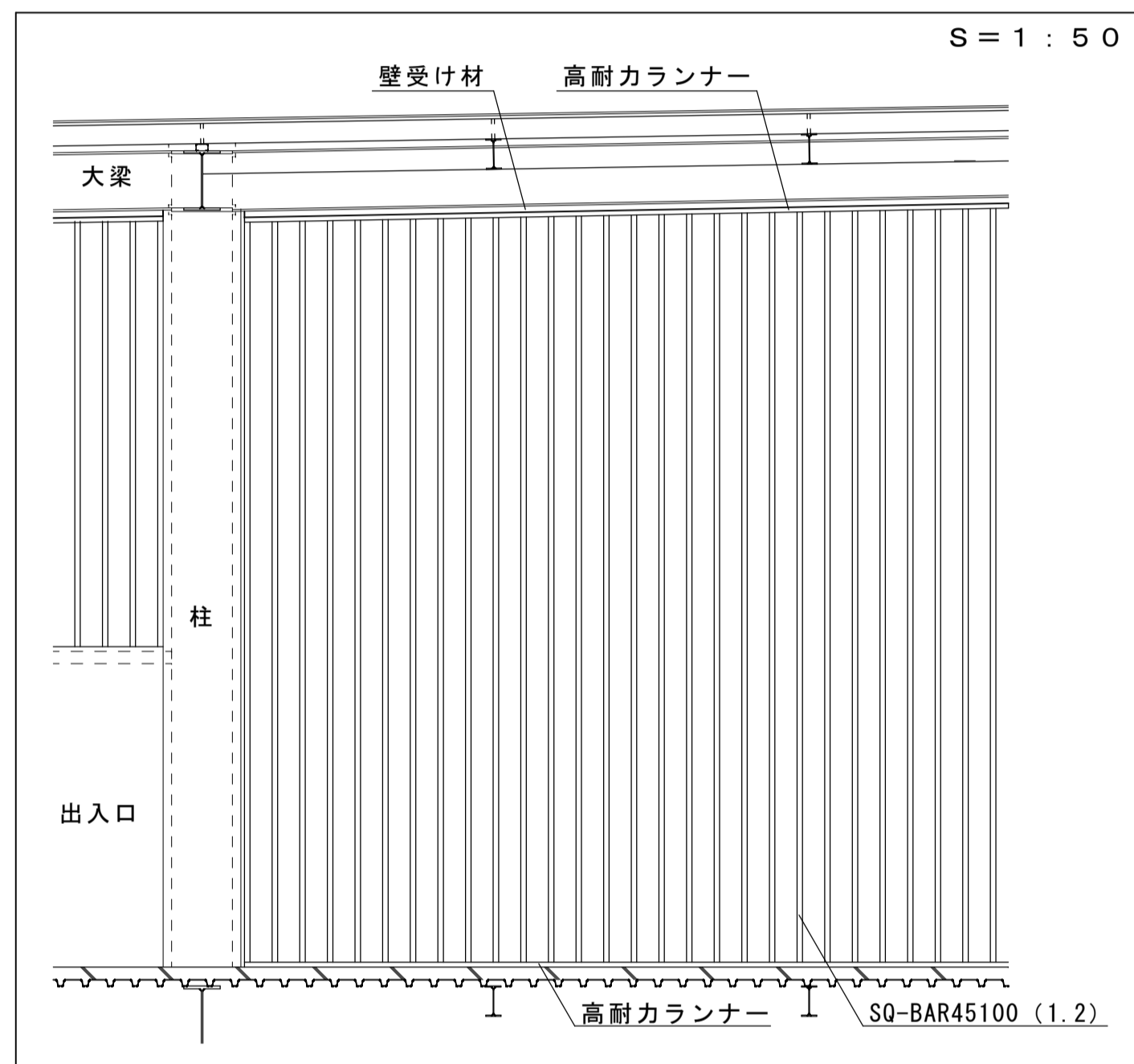
□部材一覧

	<p>・スタッド (SQ-BAR) 品名：SQ-BAR45100 (1.2) 材質：SGCC 処理：Z12</p> <p style="text-align: right;">※受注生産</p>		<p>・ランナー 品名：高耐カランナー [-105×40×2.3] 材質：SCHC 表面処理：Z12</p> <p style="text-align: right;">※受注生産</p>
--	---	--	--

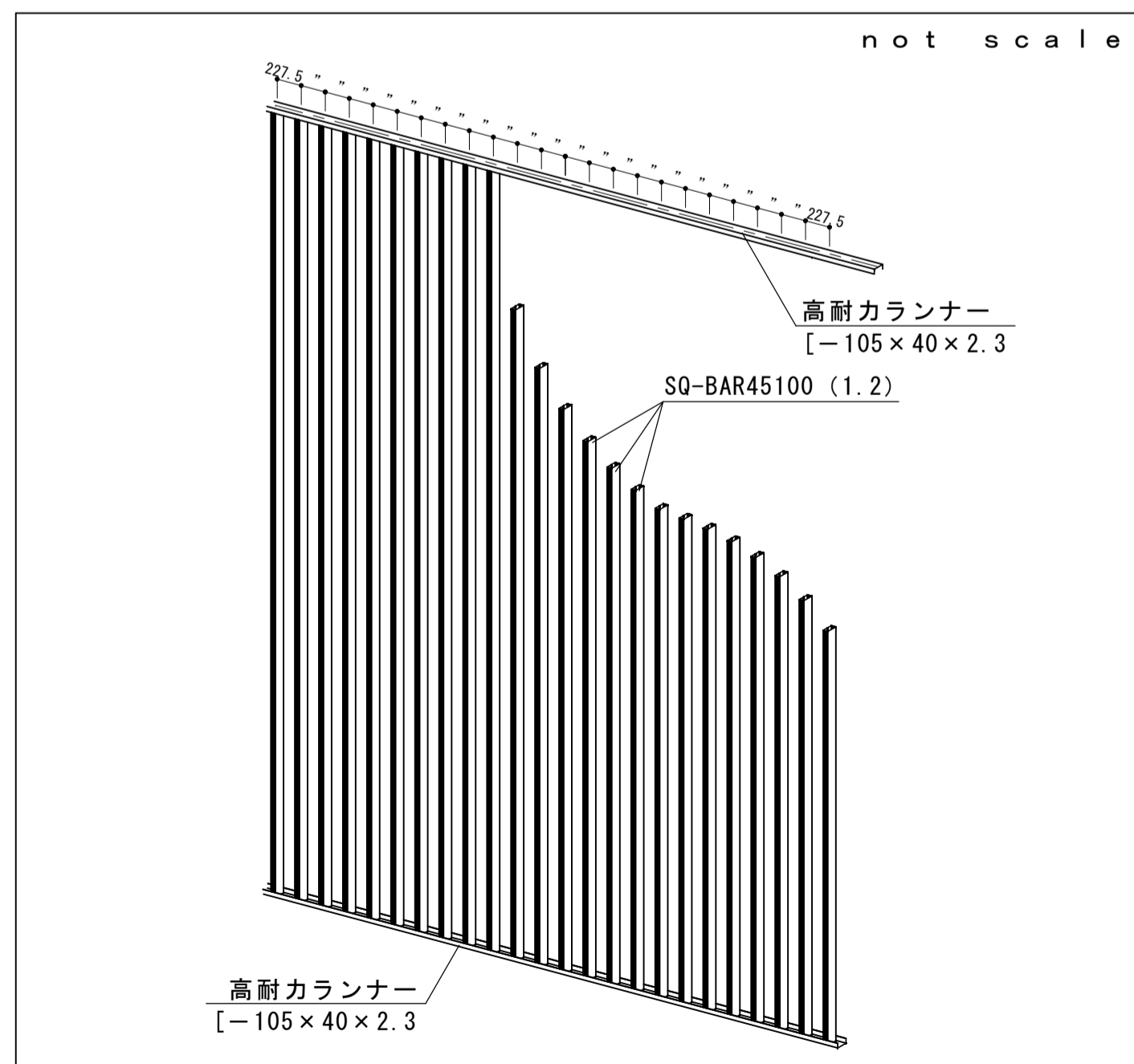
□施工

- ① 計画
 - ・要求性能（耐火等）に合わせた工法を選定し、施工計画をたてる。
- ② 施工前の確認
 - ・施工に先立ち工程表、施工要領書及び施工図等を必要に応じて作成し、発注者側に提出し承認をえることを原則とする。
 - ・施工前に施工場所の確認を行い、工程・施工範囲・各部の納まり・その他関連する工事について確認する。
 - ・コンクリートの養生は、コンクリート打設後、10日以上経過していることを確認する。
 - ・防水層などの納まりを確認し、損傷等を与えないランナーの取付け方法方法を選定する。
- ③ 搬入・保管・揚重・仮置
 - ・部材の荷受け時には、納品書と照合して所定の種類・数量が搬入されているか確認を行う。
 - ・部材の変形、損傷の有無の確認を行い検収する。
 - ・保管は、次の事項により行う。
 - 各部材の置場の設置は、事前に確保する。
 - 各部材の上には重量物を載せないこと。
 - 衝撃を与えないこと。
 - 水や湿気の侵入を防ぐこと。
- ④ 墨出し
 - ・建物の基準墨や地墨などにより設計図や施工図に基づき、壁下地材の芯墨、逃げ墨などを所定の位置に墨出しを行う。
- ⑤ 高耐カランナーの設置
 - ・ランナーを芯墨、逃げ墨に合わせ、端部を押さえ450mm以下に後施工アンカー等で、床、梁下、床板下などに固定する。ただし、鉄骨梁に設置した壁受け材への留め付けは、5500N以上の許容耐力を有するドリルねじを使用し、450mm以下に固定する。
- ⑥ スタッドの切断
 - ・スタッドの長さ（高さ）は、上部ランナーとの隙間が10mm以下になるように切断する。
- ⑦ スタッドの建込み
 - ・スタッドの間隔は、227.5mm以下とし、スタッドを上下ランナーに差し込む。※ランナーに差し込んだ状態で半回転できないので注意する。
- ⑧ 点検・検査
 - ・壁下地材の施工完了後における点検・検査は、下記の項目により行うものとする。
 - 設計図、施工図に基づく施工範囲の検査。
 - 間仕切り壁の位置、寸法の検査。
 - 取付け方法など各部材が規定通りの方法で正しく施工されているかの点検。
 - 建入れ精度の検査、周辺部の取合い、目違いや段差などの点検。
 - その他これらに付属する事項の点検と検査。
- ⑨ 養生
 - ・重量物等による衝撃や外力を加えないようにする。
 - ・水や湿気の侵入を防ぐようにする。
- ⑩ 次工程<内装壁ボード張り工程>
 - ・内装壁ボード張り工事工程へ移行する。

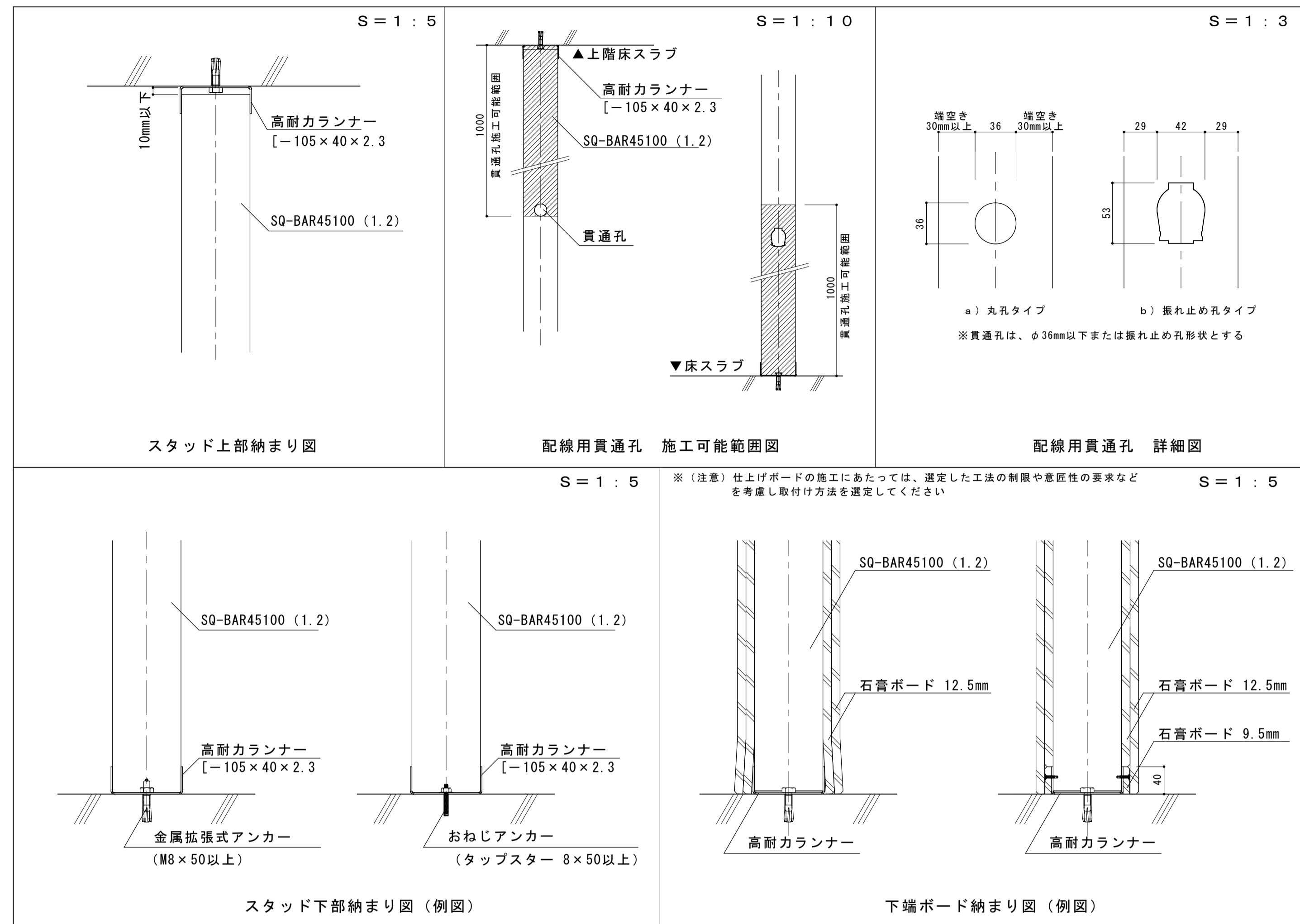
□割付例



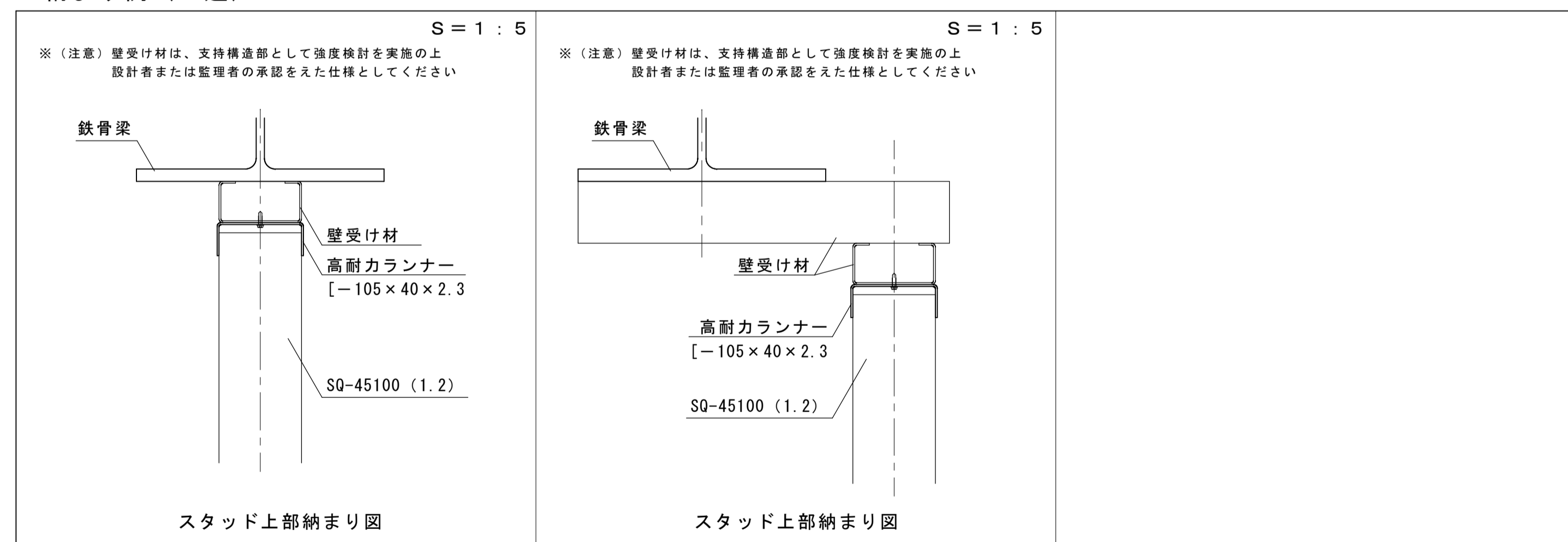
□イメージ図



□標準納まり例



□納まり例 (S造)



□設計・施工上の留意点

- ・SQ-BARの長さは高耐カランナー底部と隙間が10mm以内となるようにして下さい。
- ・高耐カランナーを取り付ける躯体部分は、十分な耐力及び剛性を有するものとして下さい。
- ・電気配線等のためにSQ-BARに貫通孔を開ける際は、孔の加工範囲を上下の壁支持部より1000mm以内に1箇所までとして下さい。
- ・貫通孔の形状は、孔径φ36mm以下（端空き30mm以上）または、振れ止め孔として下さい。
- ・出入口およびこれに類する開口部は、その開口の左右および上下を補強する。補強材の部材および取付け方法は別途強度計算などを実施して選定して下さい。